

安環第81号
令和5年7月18日

島根県知事 丸山 達也 様

安来市長 田中 武夫

「(仮称)大出日山風力発電事業環境影響評価方法書」及び「(仮称)日向山風力発電事業環境影響評価方法書」に対する意見について(回答)

令和5年6月16日付け環第263号で照会のあった表記のことについては、下記のとおりです。

記

意見:この度の風力発電事業計画については反対し、事業の中止を求める。

理由:

安来市は、地球温暖化の原因である温室効果ガス削減のため、再生可能エネルギーの理解・活用を推進しています。しかしながら、大規模な風力発電設備においては、地域の自然環境・生活環境や景観への影響について懸念されるケースも見受けられます。

このため、市としては風力発電施設等の建設にあたり、事業者が自主的に遵守すべき事項を示すことにより、自然環境及び景観と風力発電施設等との調和を図り、生活環境の保全を図ることを目的にガイドラインを策定しています。ガイドラインでは、土地の改変や森林の伐開による水道水等の水源地への影響や地下水の水量へ影響がないよう必要な措置を講じることを求めています。

安来市は、伯太川や飯梨川という生活用水および農業用水として重要な河川を有しています。現状においても、少雨による渇水で農業用水の不足による不作付け地の発生や、渇水時に取水制限や節水の呼びかけを行うことがあります。この度の風力発電事業は、伯太川や飯梨川の源流である市内山間部で計画されており、事業者が環境影響評価手続を通して、環境への影響を極

力回避又は軽減できるような事業計画を検討されたとしても、風力発電施設の建設は、森林の持つ水の貯蔵、水の浄化、洪水の抑制という水源涵養機能を現在の能力より低下させる要因にしかかなり得ません。

また、2021年には豪雨による大規模な浸水など、市民生活や農業生産に深刻な被害が発生しています。安来市は真砂土の急峻な山が続き、かつてのたたら製鉄の砂鉄採取の跡も多く、複雑かつ崩落しやすい地形、地質であります。そこに大型の風力発電施設はもとより建設用の道路を敷設した場合、近年の地球温暖化による異常気象により頻発する集中豪雨により、崩落の危険性がさらに増していきます。

同様の理由から、複数の農業団体と林業関係団体より、安来市に対してこの度の風力発電事業計画について、慎重な対応を求める要望書が提出されています。そして、市民団体より安来市議会に提出されていた、(仮称)大出日山風力発電事業及び(仮称)日向山風力発電事業について、市議会として反対の意志表明を求める陳情が全会一致で採択されました。

この度の風力発電事業が地球温暖化の原因である温室効果ガスの削減に寄与する事業であることは十分に理解していますが、市としては市民生活を守り、限りある水資源の保全を図ることを優先し、将来に禍根を残さないため、この度の風力発電事業については、中止を求めることとします。

以上